

アベノミクスについての世の中の関心は、第1の矢である金融政策から第3の矢である「民間投資を喚起する成長戦略」に移ってしまっている。日本銀行は4月の金融政策で、できる政策はすべて行うという姿勢を打ち出し、政策を小出しに出してきた感のあるそれまでの政策運営との違いを出した。ただ、できる政策はすべて出し切ったということ、金融政策の効果はすべて出尽くしたという誤った印象を与えているようだ。

これは大きな誤解である。金融政策の本来の効果が出てくるまでには、かなりのタイムラグがある。例



伊藤元重の

ニュースな見方

えば、為替レートが円安に振れても、輸出数量が増えるまでにはそれなりの時間がかかる。実質金利が低下して投資が増えるまでにも時間がかかる。投資や輸出などが金融政策によって本格的に動くのはこれからだと言っている。

脱デフレへ効果これから

今回の金融政策の特徴は

経済全体にまん延しているデフレマインドを払拭する。プロの期待、事業会社の期待、人々の期待を、それぞれに分けて考えるべきである。大胆な金融緩和政策は為替レートの脱却は難しいからだ。融緩和政策ですぐに動いたのが市場のプロの期待である。

金融政策出尽くし？

プロの期待、事業会社の期待、人々の期待を、それぞれに分けて考えるべきである。大胆な金融緩和政策は為替レートの脱却は難しいからだ。融緩和政策ですぐに動いたのが市場のプロの期待である。

「物価が一時的上昇したが、この動きはまたデ...

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。